

片所の里通信

かたそ

(旧ホテル通信)

No.173

2023.4.04

<小山のホタルと自然を守る会>

事務局 町田市小山町2545-6

Tel 042(797)5310 畠山

HP:<http://www.oyama-hotaru.com/>

春の散歩道

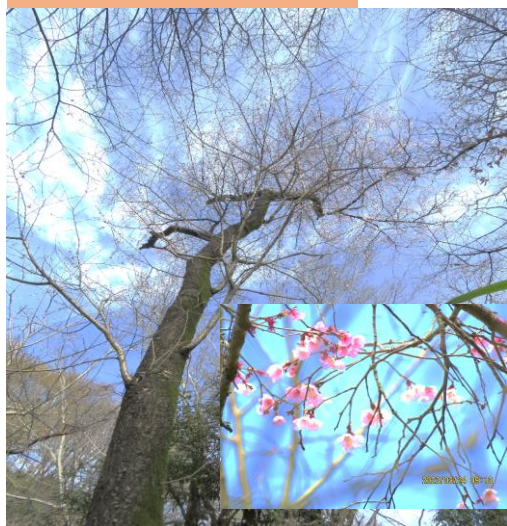


2023/04/04 09:39

(2023年4月4日撮影)

若葉が一斉に芽吹き、まばゆいばかりの4月上旬の谷戸の様子です。真ん中を通る一本の筋は散歩道で、春を楽しみに多くの方々が訪れています。春は生物も植物も動き出す季節。山地

ホシザクラの勇姿



(2023年3月24日撮影)

では、まずホシザクラとヤブザクラが咲き、その後にヤマザクラとオオシマザクラと次々咲き続きます。草地にはムラサキダイコンやニリン草が群生して咲いています。水路では貝類のカワニナ（ホタルの餌）ホトケドジョウも動き始め、多分ホタルの幼虫もモゾモゾし始めたのではないかと思います。さわやかなウグイスの鳴き声も聞こえてくるようです。6月にはホタルが舞い始めます。

片所谷戸は市街地の中のポツンと残された緑のオアシスです。絶滅危惧種のホシザクラが咲き、ホタルが飛び交う谷戸緑地は貴重な憩いの場です。

新緑に包まれ暖かい春の日差しを浴びての散歩はいかがでしょうか。

片所谷戸で一番のホシザクラの大木に今年も花が咲きました。今年は3月中旬から咲き始めましたが、20日過ぎからの雨続きで徐々に散り始めてしまい、残念ながら花の盛期が短かったようです。これも自然の摂理でしょう。

ホシザクラの増え方



ホシザクラには花の咲いた後も種ができません。一般的に植物は、種によって自分の仲間を増やしていきます。種を食べた鳥が糞をすることで広い範囲に種がちりばめられ、そこから芽が出て仲間を増やしていきます。

自然界のホシザクラは、親となる木の根が伸びて行ったその先に子供の苗がニョッキと出てきます。左の写真をみると中央の親木の根っこが這って行った先の

の左側に苗が育っています。これは専門的用語でクローン繁殖と言われています。「挿し木」による繁殖も同じことです。誰でも知っている桜のソメイヨシノの苗もほとんどがクローン栽培だそうです。クローン繁殖は親と同じ遺伝子が100パーセント引き継がれますので、種によるような苗の品質ののばらつきはありません。

ホシザクラは、南大沢や小山など多摩丘陵南部にしか生息しないため希少価値の極めて高い絶滅危惧種1A類に指定されています。広域的に広まらなかった理由は、根っ子によるクローン繁殖によるものではないかと思います。根っこは山も川も超えることはできませんので結果的に繁殖範囲も狭い地域に限定されたものではないかと思います（仮説）

ホシザクラを見学に来た小学生が「貴重なサクラと聞いていたがいっぱい苗が育っているのではないか」と言っていました。確かに苗がニョッキニョッキと出ています。それも一生懸命自分たちの子孫を増やそうとする植物の本来的な努力です。苗を大事に育てたいと思います。

カワニナの池を改善

今までのカワニナの池は水がそのまま流れていました。そのため流れが増水ごとに変わったりしてして全体的に水が張ることがありませんでした。流れも変わり水量も不安定になりカワニナにとって安定的な場所ではなかったと思われました。そこで出口をせき止めて常時水が溜まっている状態にし、本来の「池」にしました。そうしたら翌日さっそくペアのカルガモが遊びに来ていました。

この場所は、例年多くのホタルが飛び交う場所です。カワニナの増殖を期待しています。



せき止めた

シイタケづくり



谷戸は適度な湿気と日陰があるためシイタケにとって最適な条件の場所のようです。そのため、ナラ枯れ病で伐採されたコナラの原木を公園緑地課から譲り受けてシイタケの菌を植えつけました。2年後に採れるようになったら「役得」とばかりに仲間とバーベキューで食するのがささやかな夢です。

例年6月からホタルが飛び始めます。お楽しみにしてください。